

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

JSA ソフトボール

2026年／令和8年

第497号

8月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



© WBSC

World Cup Final 出場権獲得

「第18回女子ワールドカップ グループステージ」グループB（2026.7.14～18 ペルー・リマ）

C o n t e n t s

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| ・第18回女子ワールドカップ グループステージ……………2 | ・いよいよ夏の全日本（全国）大会の季節到来……………12 |
| 女子TOP日本代表、グループBを全勝の1位通過！ | 暑さも雨も「熱意」と「情熱」で吹き飛ばせ！ |
| ・女子大学日本代表レポート……………4 | ・令和8年度 第4回理事会 議事録……………14 |
| 「第5回女子大学アジアカップ」代表選手16名が決定 | ・令和8年度 第5回理事会 議事録……………18 |
| ・第59回日本女子リーグ 交流節……………6 | ・事務局だより……………24 |
| ・第47回全日本クラブ男子選手権大会……………10 | |

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

第18回女子ワールドカップ グループステージ グループB

2026年7月14日（火）～18日（土） ヘルー・リマ



女子TOP日本代表 全勝1位



去る7月14日（火）～18日（土）、ヘルー・リマで「第18回女子ワールドカップグループステージ」グループBが開催され、女子TOP日本代表が出場全勝の1位で「グループステージ」を突破。来年4月にオーストラリア・レッドクリフで開催される「第18回女子ワールドカップファイナル」の出場権を獲得した。

大会には、ホストチームであるペルー（18）をはじめ、日本（1）、プエルトリコ（3）、イギリス（12）、フィリピン（13）、ベネズエラ（16）の6チームが出場（※）内数字は2025年12月31日時点のWBSC（世界野球ソフトボール連盟）発表の世界ランキング。シングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オープニングラウンド」を戦い、1位・2位のチームが「第18回女子ワールドカップファイナル」進出をかけ、「優勝決定戦」（第1代表決定戦）を行い、まずこの試合の勝者が「第1代表」として「ファイナル」進出決定。この試合の敗者は3位・4位の勝者と戦い、勝者が「第2代表」として、「ファイナル」へ進む切符を手にする試合方式で行われた。

女子TOP日本代表は「オープンニングラウンド」を5戦全勝の1位で通過「優勝決定戦」（第1代表決定戦）でもプエルトリコに2-1で劇的なサヨナラ勝ち。「第1代表」の座を手にした。

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

第18回女子ワールドカップ グループステージ グループB



ペルー・リマで開幕！

第18回女子ワールドカップ グループステージ グループB オープニングラウンド



© WBSC

第2戦 JAPAN 4 - 0 PHILIPPINES



© WBSC

第1戦 JAPAN 9 - 1 GREAT BRITAIN



© WBSC

第4戦 JAPAN 8 - 0 VENEZUELA



© WBSC

第3戦 JAPAN 9 - 0 PERU

OPENING ROUND
(予選リーグ)

5戦全勝 1位通過

JAPAN 2 - 1 PUERTO RICO

© WBSC



© WBSC

第5戦 JAPAN 4 - 2 PUERTO RICO

ファイナル (優勝決定戦/第1代表決定戦)



大会出場メンバー、試合スケジュール等、詳細情報はこちら

令和8年度 女子大学日本代表選手 第5回女子大学アジアカップ 出場選手決定！



「3連覇」へ向け、代表選手を選出

去る6月30日（火）～7月2日（木）の3日間、静岡県伊豆市・天城ドームを主会場に、「令和8年度女子大学日本代表チーム選手選考会」（※第5回女子大学アジアカップ代表選手選考会）が開催された。

選考会には、所属大学の学長、チーム監督、各都道府県支部協会の推薦を受けた72名が参加。「女子大学日本代表」として「第5回女子大学アジアカップ」に出場する代表選手「16名」の座をめざし、選考に臨んだ。

今回の選考会は、「実戦主体」「試合形式」での選考となり、参加者を4つのグループに分け、ピッチャーは5人の打者と対戦。打者をいかに打ち取るピッチングができるかが「実戦」の中でチェックされ、5人の打者との対戦が終わると次の投手が登板。それを繰り返す形で選考が進められた。

また、守備者は基本的なグラブさばきや守備範囲の広さ、肩の強さやスローイングの正確性はもちろんのこと、そのピッチャーのピッチングを冷静に観察しながら、どこに打球が飛ぶ可能性が高いか、相手バッターがどのようなバットイングをしてくるかを察知し、適切なポジションングが取れているか、相手の攻撃を未然に防ぐことができるか、守備者としての判断力、センスが問われる選考となった。

打者も「実戦形式」で打撃結果がそのまま継続されていくため、チャンスメイク、チャンスを広げる状況で打席に立つこともあれば、塁上を走者が埋め、大きな得点のチャンス、走者を選すバットイングが求められる状況で打席に入ることもあり、ピッチャーとの力関係も勘案しながら、その状況を正しく的確に判断し、自らの状況判断に基づき、どんなバットイングをするのか、状況判断の正確性や戦術眼が厳しくチェックされると同時に、状況に応じたバットイングをするだけの打撃技術を有しているかが問われる選考となった。

「実戦形式」での選考が進められる傍ら、ピッチャーは自らの有する球種を申告し、その球種を投げ込み、スピードガンによる球速測定も実施。試合のないグループの選手たちは、塁間走、二塁から本塁への生還を想定した走力のタイム測定も行った。

選手たちは、選考委員の「厳しい目」が注がれる中、自分の持てる力を全力でアピール！「日本代表」の座をめざし、一つひとつのプレイに集中力を高め、全力でプレイしていた。

選考結果は次頁の通りで、「第5回女子大学アジアカップ」は、10月22日～26日、台湾・南投県埔里で開催される予定である。

令和8年度女子大学日本代表チーム （第5回女子大学アジアカップ出場選手）

【投手】

栗田 満理奏（園田学園大学）
小林 愛菜（IPU・環太平洋大学）
佐藤 希乃花（日本体育大学）
中島 陽香（金沢学院大学）
増渕 安月（東京女子体育大学）



【捕手】

岡部 七海（日本文理大学）
小林 明音（東北福祉大学）



【内野手】

渋川 ひより（城西大学）
長嶋 涼奈（金沢学院大学）
芳賀 凜（中京大学）
宮崎 真緒（東京女子体育大学）
森 心萌（園田学園大学）



【外野手】

柏原 悠（金沢学院大学）
櫛渕 あい（東京女子体育大学）
千田 優美（城西大学）
水島 光（日本体育大学）



2026.6.30～7.2
静岡県伊豆市・天城ドーム 他

令和8年度 女子大学日本代表 選手選考会
第5回 女子大学アジアカップ 代表選手 選考会

令和8年度
女子大学日本代表選手

第5回
女子大学アジアカップ
出場選手

選考会
詳報・動画は
こちら



**JAPAN
SOFTBALL
LEAGUE**

第59回
日本女子ソフトボールリーグ
交流節



6勝2敗
同率
首位



ペヤング



小泉病院 Blue Arrows

【交流節】 令和8年7月3日（金）～5日（日）
☆プラチナセクション★サファイアセクション合同開催
三重県熊野市／山崎運動公園くまのスタジアム 他

☆プラチナセクション☆

静甲、MORI ALL WAVE KANOYA
6勝2敗で同率首位

★サファイアセクション★

小泉病院、ペヤング
6勝2敗で首位を並走！！

●交流節・プラチナセクション概要●

「第59回日本女子ソフトボールリーグ」交流節は、7月3日（金）～5日（日）の3日間、三重県熊野市・山崎運動公園くまのスタジアムを主会場に開催された。

交流節は「プラチナセクション」1位・3位・5位のチームが「サファイアセクション」2位・4位・6位のチームと、「プラチナセクション」2位・4位・6位のチームが「サファイアセクション」1位・3位・5位のチームと対戦する試合方式が採用されている。



「連覇」を狙う静甲は6勝2敗で「同率首位」

「プラチナセクション」では、この「交流節」を4勝1敗の「同率」ながら「1位」で迎えたMORIALLE WAVE KANOYA、「2位」静甲（同率で並ぶチームの直接対決の勝敗で順位を決定）がともに2勝1敗。両

チーム一歩も譲らず、通算成績を6勝2敗とし、「同率首位」に並んでいる。「3位」は5勝3敗のYKK。こちらも「交流節」は2勝1敗。「同率首位」に並ぶ両チームの背後につけ、懸命に追走している。

「4位」は4勝4敗で勝率5割の花王コスメ小田原。こちらもこの「交流節」2勝1敗で乗り切ったものの、上位チームと「相星」とあって、その差を詰めることができず……。上位2チームが「日本リーグ優勝」をかけて戦う「順位決定節」Aブロックに進むには、後半戦は「もう負けられない！」試合が続くことになる。

「5位」は「サファイアセクション」で首位を快走するベヤングに11-2で大勝し、2勝目を挙げ、通算成績2勝6敗とした厚木SC。最終戦の大和電機戦も最終回ツーアウト、「あと一人」のところまでリードしていたのだが……そこら追いつかれ、延長タイブレークの末、惜敗。しかし、試合内容は確実に向上している。

開幕戦に勝利した後、7連敗のルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は1勝7敗で最下位。この「交流節」でも連敗を止められず、出口の見えない連敗のトンネルの中であえいでいる。

●交流節・サファイアセクション概要●

「第59回日本女子ソフトボールリーグ」交流節は、7月3日（金）～5日（日）の3日間、三重県熊野市・山崎運動公園くまのスタジアムを主会場に開催された。

交流節は前述した通りの試合方式で行われ、「第2節」終了時点で4勝1敗の「同率」ながら、「同率」で並ぶチーム同士の「直接対決」の結果で「1位」となったベヤング、2位の小泉病院がともに2勝1敗。依然として首位を並走する形となっている。

ベヤングは、今節初戦の厚木SC戦で大敗。「ミラクル」な戦いもこれまでかと思われたが、花王コスメ小田原戦に1-0の完封勝ち。続く「プラチナセクション」首位、「連覇」を狙う静甲戦にも5-1で快勝！「ミラクル」な戦いでの快進撃はまだまだ終わるそうにない。

小泉病院も初戦のMORIALLE WAVE KANOYA戦に0-5の完敗を喫し、続くルネス紅葉スポーツ柔整専門学校戦も最終回「まさか……」の同点ツーランを浴び、追いつかれる「窮地」もあったが、その裏、「キャプテン」上田爽樺のサヨナラホームランで息を吹き返し、最終戦のYKK戦は8-1で大勝。「同率首位」の座を守っている。



嬉しい「今シーズン初勝利」と「本拠地移転後初勝利」を挙げた Citrine SHIMANE

4勝4敗の勝率5割で「同率3位」に並ぶのは大和電機と平林金属。「同率首位」に並ぶ2チームを懸命に追走してはいるものの、「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Aブロック進出を果たすには「2位以上」に順位を上げる必要がある、後半戦は「絶対に負けない」戦いが続くことになる。

「5位」は3勝5敗のVONDS市原。2年連続「日本リーグ準優勝」の実力派チームであり、「今年こそ日本リーグ優勝」と意気込んで迎えたシーズンだったのだが……。ここまでは苦しい戦いが続いている。

開幕から勝ち星なしで「交流節」に臨んだCitrine SHIMANEは、開幕7戦目にしてルネス紅葉スポーツ柔整専門学校に4-0の完封勝ち。嬉しい「今シーズン初勝利」と鳥根県雲南市への「本拠地移転後初勝利」を挙げ、通算成績1勝7敗としている。



Special Event



～ Special Event ～
東海地区大学選抜 4－0 JSL Jr オールスター
～ DREAM MATCH ～
レジェンドチーム 1－3 JSL オールスター
～ ALL STAR GAME ～
プラチナ選抜 0－5 サファイア選抜

[試合のスコアをクリックするとその試合の詳細レポートがご覧になれます](#)

第59回日本女子ソフトボールリーグ 交流節 試合結果					
月 日	セクション順位	試合結果		セクション順位	
7月3日(金)	プラチナ1位	MORI ALL WAVE KANOYA	5－0	小泉病院 Blue Arrows	サファイア2位
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	3－1	VONDS市原 Emerald Green	サファイア5位
	プラチナ3位	YKK	12－1	Citrine SHIMANE	サファイア6位
	プラチナ1位	MORI ALL WAVE KANOYA	3－4	平林金属 Peachblossoms	サファイア4位
	プラチナ6位	厚木SC	11－2	ベヤング	サファイア1位
	プラチナ2位	静甲 ソルフェジオ	3－1	大和電機 Blue Lakers	サファイア3位
	プラチナ3位	YKK	8－5	平林金属 Peachblossoms	サファイア4位
	プラチナ5位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	0－4	Citrine SHIMANE	サファイア6位
	プラチナ2位	静甲 ソルフェジオ	2－1	VONDS市原 Emerald Green	サファイア5位
7月4日(土)	サファイア1位	ベヤング	1－0	花王コスメ小田原 フェニックス	プラチナ4位
	サファイア6位	Citrine SHIMANE	3－5	MORI ALL WAVE KANOYA	プラチナ1位
	サファイア5位	VONDS市原 Emerald Green	8－0	厚木SC	プラチナ6位
	サファイア3位	大和電機 Blue Lakers	2－8	花王コスメ小田原 フェニックス	プラチナ4位
	サファイア1位	ベヤング	5－1	静甲 ソルフェジオ	プラチナ2位
	サファイア2位	小泉病院 Blue Arrows	3－2	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	プラチナ5位
	サファイア3位	大和電機 Blue Lakers	4－3	厚木SC	プラチナ6位
	サファイア2位	小泉病院 Blue Arrows	8－1	YKK	プラチナ3位
	サファイア4位	平林金属 Peachblossoms	9－0	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	プラチナ5位

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

第59回日本女子ソフトボールリーグ

プラチナセクション 交流節 終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	静甲 ソルフエジオ	6勝2敗	0.750
1位	MORI ALL WAVE KANOYA	6勝2敗	0.750
3位	YKK	5勝3敗	0.625
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	4勝4敗	0.500
5位	厚木SC	2勝6敗	0.250
6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1勝7敗	0.125

サファイアセクション 交流節 終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	小泉病院 Blue Arrows	6勝2敗	0.750
1位	ペヤング	6勝2敗	0.750
3位	大和電機 Blue Lakers	4勝4敗	0.500
3位	平林金属 Peachblossoms	4勝4敗	0.500
5位	VONDS市原 Emerald Green	3勝5敗	0.375
6位	Citrine SHIMANE	1勝7敗	0.125



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイトで <https://jsl-women.com/>

第47回全日本クラブ男子選手権大会

令和8年7月11日（土）～13日（月） 長野県伊那市／伊那ニッパツスタジアム 他
記録提供：長野県協会記録委員会



株式会社山口水産（鹿児島）

初の栄冠に輝く！



優秀選手・青木琉真
（SAGA ダイワアクト）



大会 MVP・木場田翔也
（株式会社山口水産）

【大会概要】

標記大会が、7月11日（土）～13日（月）の3日間、長野県伊那市・伊那ニッパツスタジアムを主会場に開催された。大会には、前年度優勝・準優勝チーム、各地区・各都府県の予選を勝ち抜いた代表32チームが集結。大会初日、6球場を使用し、1回戦16試合を行い、2日目は4球場で2回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施。大会最終日は主会場である伊那ニッパツスタジアム、伊那ニッパツ野球場の2球場で準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、全日程を終了した。

大会初日は厳しい暑さの中での試合となったが、2日目は曇天で比較的涼しく、最終日は準決勝の試合開始直前に雨に見舞われる場面もあったが、大会運営スタッフの熱意と情熱、祈りが天に通じたか、予定された日程で大会を終了することができた。

準決勝には、「連覇」を狙う三重ヴェルデウイン（三重）、「第25回大会」以来の「戴冠」をめざすSAGAダイワアクト（佐賀）、「初優勝」へ向け、突っ走る株式会社山口水産（鹿児島）、前年度準優勝、「今年こそ優勝！」と意気込む日本エコシステム（岐阜）、すべて「日本リーグ」のチームが勝ち上がり、「クラブ男子日本一」の座をかけ、戦った。

〈準決勝〉 SAGA ダイワアクト 5－3 三重ヴェルデウィン

先攻のSAGAダイワアクトは初回、三重ヴェルデウィンの先発・倉光夏惟人の立ち上がりに襲いかかり、死球、犠打、安打で一死一・三塁と攻め立て、4番・升水大瑚の右犠飛で先取点を挙げ、なお続く二死三塁のチャンスで5番・永松幸太郎がセンター頭上を越えるツーランホームラン！ 初回到3点を先制し、3回表には3番・古川恵土の適時二塁打で1点、6回表には、8番・佐藤翼のタイムリーでダメ押しの1点を加え、5－3で逃げ切り、勝利を収めた。

三重ヴェルデウィンも5回裏に9番・井上匠、6回裏には5番・有村翼牙の本塁打で追い上げたが、あと一歩及ばず、「連覇」は夢と消えた。



「連覇」を狙う三重ヴェルデウィンも終盤、懸命の追い上げを見せたが…

〈準決勝〉 日本エコシステム 0－3 株式会社山口水産

後攻の山口水産は初回、死球で出塁した走者を一塁に置き、3番・瀬村太郎がライトスタンドへ先制のツーランホームラン！ この「一発」で試合の流れを引き寄せ、5回裏には、5番・池田蓮がレフトスタンドへダメ押しの「一発」を放ち、3－0とリードを広げ、勝利を決定づけた。

守っては、先発・木場田翔也が日本エコシステム打線を抑え込み、被安打2・奪三振8の好投。1回戦で「完全試合」を達成する等、今大会「絶好調」の右腕が、この試合でもほぼ「完璧」なピッチングを見せ、見事な完封で決勝進出！ 「初優勝」に王手をかけた。



山口水産は初回、瀬村太郎のツーランホームランで先制！

〈決勝〉 SAGA ダイワアクト 1－3 株式会社山口水産

後攻の山口水産は初回、SAGAダイワアクトの先発・青木琉真の立ち上がりをとらえ、1番・小島銀河が死球で出塁すると、2番・下池勝翔が何度か送りバントを試みた後、「強打」に切り替え、左中間を切り裂く適時三塁打。先取点を挙げ、一死後、4番・文田修斗がスクイズを決め、この回2点目。試合の主導権を握った。

2点を追うSAGAダイワアクトは3回表、四球で出塁した走者を手堅く犠打で二塁へ進め、二死後、意表を突く三盗。2番・豊村友之介の二塁内野安打で三塁走者が還り、1点を返した。

1点差とされた山口水産はその裏、二死走者なしから5番・池田蓮が積極果敢に初球を狙い打ち！ レフトスタンドへ「超特大」の一発を放ち、3－1と再び2点差にリードを広げた。

SAGAダイワアクトは終盤6回表、1番・森川凱貴、2番・豊村友之介の連打、ワイルドピッチで無死二・三塁とし、一死後、4番・升水瑛珈の死球で満塁。「一打同点」「長打が出れば逆転」の場面を作ったが、力投を続ける山口水産・木場田翔也の前にあと一本が出ず……無得点。このリードを木場田翔也が最後まで守り切り、3－1で勝利を収め、歓喜の「初優勝」。粘るSAGAダイワアクトを振り切り、「初」の栄冠をつかみとった。



山口水産、歓喜の初優勝！

**第47回
全日本
クラブ男子
選手権大会**

決勝ダイジェスト

2026.7.11～13
長野県伊那市



決勝戦ダイジェスト動画はこちら

大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

いよいよ夏の**全日本（全国）大会**の季節到来



暑さも雨も**熱意と情熱**で吹き飛ばせ！

4月に開幕した「JDRリーグ」、男子の「日本リーグ」はしばしの「サマーブレイク」に入り、女子リーグも7月3日（金）～5日（日）、「交流節」を最後に、9月の後半戦再開までの中断期間に入った。

「交流節」では、公式戦の実施とともに、様々なイベントも実施され、ソフトボールの「未来」を担うたぐさんの子どもたちが会場に集い、恒例の「ファーストピッチセレモニー」（始球式）、「エスコートキッズ」はもちろん、大会最終日の「レジェンド」との「ドリームマッチ」や「オールスター戦」では、「ボールガール」「バットガール」としてグラウンドを元気に駆け回り、試合会場に「笑顔」と「元氣」を届けてくれた。

7月中旬からは「クラブ男子選手権大会」の開催を皮切りに、全日本大会（全国大会）の開催がスタート！「日本一」の座をめざし、全国各地で熱戦が展開されている。

尋常でない暑さや不安定な天候、開催地では様々な「対策」が講じられ、天気予報とにらめっこしながら、雨風への対策、グラウンド整備等に奔走。力を尽くしてくれている。屋外競技の「宿命」、競技の運営・進行が天候に左右されることからは逃れられないが、今後も順調な大会開催が続くことを願うばかりである。

第59回日本女子ソフトボールリーグ 交流節



第47回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会





令和8年度第4回理事会議事録

本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認。理事25名中出席24名（欠席1名）、出席監事2名（欠席1名）で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認され、審議が行われた。

●審議事項

- 第1号議案
常務理事（業務執行理事）について
- 第2号議案
各本部長・副本部長・担当理事について
- 第3号議案
各専門委員会委員長・副委員長について

岡本専務理事より、定款第26条第2項により、会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定することが説明され、次のように提案された。

◎常務理事

佐々木幸治理事
大沼信一理事
西康弘理事
秋枝英行理事
谷田圭司理事
神谷和宏理事
木田京子理事
佐藤理恵理事

以上を推薦することが提案された。

続けて、本部長、副本部長、担当理事、及び各本部に付随する専門委員会委員長、副委員長について、各委員会の業務内容や審議してもらいたい内容を含め、詳細な説明を行いながら、各

期日…令和8年6月26日（金）
13:00～13:30
場所…東京・Japan Sport
Olympic square
／インターネット会議方式併用
理事現在数…25名
出席理事…24名
欠席理事…1名
出席監事…3名
議長…会長 河合 満



各本部長、副本部長、担当理事、及び各本部に付随する専門委員会委員長、副委員長等が推薦され、審議・決定された

本部長、副本部長、担当理事、委員会委員長が推薦された。

推薦・提案の内容は次の通り。

●事業総括本部

〔本部長〕西康弘理事

〔副本部長〕秋枝英行理事

〔担当理事〕岩崎眞美理事

〔担当理事〕稲福孝理事

〔担当理事〕鈴木優子理事

※岩崎理事は指導者担当

○総務委員会

《委員長》西康弘理事

《副委員長》秋枝英行理事

○技術委員会

《委員長》稲福孝理事

《副委員長》鈴木優子理事

○指導者委員会

《委員長》後日選定

○財務委員会

《委員長》秋枝英行理事

●事業運営本部

〔本部長〕佐々木幸治理事

〔副本部長〕神谷和宏理事

〔担当理事〕白土なほ子理事

〔担当理事〕平井靖之理事

〔担当理事〕鈴木利夫理事

※白土理事は医事担当

○審判ルール委員会

《委員長》神谷和宏理事

○記録委員会

《委員長》村田文敏理事

○医事委員会

《委員長》成田和穂氏

○リーグ委員会

《委員長》佐々木幸治理事

《副委員長》平井靖之理事

《副委員長》鈴木利夫理事

●企画推進本部

〔本部長〕鈴木俊一副会長

〔担当理事〕西村昭宏理事

○アスリート委員会

《委員長》後日選定

○広報マーケティング委員会

《委員長》西村昭宏理事

●普及本部

【本部長】谷田圭司理事
【副本部長】大沼信一理事
【担当理事】荒木香織理事

○普及委員会

《委員長》谷田圭司理事
《副委員長》金谷裕司氏

○ASOBALL委員会

《委員長》大沼信一理事

○アンダーカテゴリー対策部会

《委員長》後日選定

●国際本部

【本部長】佐藤理恵理事
【担当理事】山田博子理事

○国際連携委員会

《委員長》佐藤理恵理事

○ベースボール5委員会

《委員長》後日選定

●選手強化本部

【本部長】木田京子理事
【担当理事】岡田理恵理事

○男子強化委員会
《委員長》後日選定

○女子強化委員会

《委員長》後日選定

○倫理・コンプライアンス委員会

《委員長》岡本友章専務理事

《副委員長》清水光理事

○中長期計画PDCA委員会

《委員長》岡本友章専務理事

《副委員長》岡田理恵理事

○LA28強化特別委員会

《委員長》岡本友章専務理事

以上、選定の経緯・詳細が説明され、提案された。

この提案を受け、審議が行われ、審議の結果、原案通り承認された。

なお、次回7月5日の理事会までに各委員長は担当・所管する委員会の委員を選定し、推薦するよう要請された。

第4号議案

女性活躍・推進プロジェクトの新設について

岡本専務理事より、ガバナンスコー

ドやJSPPO（公益財団法人日本スポーツ協会）国スポ競技選定等で指摘された女性アスリートや審判員、記録員等の活躍の場を広げ、さらなる普及振興、活性化が求められていることから、役員、選手、審判員、記録員等で構成する委員による、女性が活躍するための課題解決に特化した議論を行うことを目的とする「特別プロジェクト」を設置すること。期間は令和8年8月から4年間を目標に、各カテゴリーである一定の成果や方向性を明確に示していくことが提案された。

西常務理事より、この委員の選出方法について確認され、岡本専務理事より、審判員、記録員については、それぞれ神谷審判ルール委員長、村田記録委員長に、選手については西総務委員長と木田選手強化本部長で協議して推薦してもらいたいとの構想が示された。

また、山田理事や岩崎理事、大沼常務理事より、野球、バドミントンにおける取り組みや各地区・各都道府県での実践事例が紹介された。

これを受け、河合会長より外部理事の他競技における実践事例、各地区・各都道府県、市町村等での取り組み等を調査・集約し、女性が活躍できる場の提供、環境整備を行っていくよう要望が出された。

これらの提案、意見を受け、審議が行われ、審議の結果、原案通り承認。今後プロジェクトリーダー及び委員を選定することが確認・了承された。

第5号議案

女子TOP日本代表チーム

派遣選手変更について

岡本専務理事より、女子TOP日本代表チームの「第1次国内強化合宿」から「第18回女子ワールドカップ・グループステージ」「第1次海外強化合宿」と続く一連の派遣選手について、選出されていた須藤志歩選手（豊田自動織機）がケガのため参加に支障がある可能性があることが所属先より報告された。

これを受け、「LA28強化特別委員会」で個別に議論・協議を行い、医事委員で女子TOP日本代表チームを管轄する服部幹彦ドクターの医学的見地からの判断・意見も踏まえ、事業に参加することが妥当でなく、代替選手を派遣すること、この派遣選手の選考については、今季の打撃成績が好調であり、須藤選手の守備位置を含む内野の複数ポジションを守る選手という点を考慮し、木村愛選手（SHIONOGI）を選出することが提案された。

なお、既に「第1次国内強化合宿」は開始されていることから、本件は事後承認となってしまうが、大会まで期間がないことも考慮の上、了承が求められた。



「第18回女子ワールドカップ グループステージ」に急遽招集が決まった木村愛選手（SHIONOGI）。※写真中央

なお、須藤選手は8月には回復見込みであることから、9月の「第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）」選出選手としては、そのまま残すことが併せて説明された。

以上の経緯・詳細の説明を受け、審議が行われ、審議の結果、本件については了承された。

第6号議案

事務局への出向勤務者について

岡本専務理事より、事務局の業務強化のため、トヨタ自動車より出向勤務者を受け入れることが説明された。

勤務者は山之内克憲氏（現・トヨタ自動車女子ソフトボール部部长、契約期間は2026年8月1日～2028年8月1日の2年間とし、事務局における役職は総合企画室長、経費は出向負担金、通勤定期代、労災保険、健康診断費用、出向時の出張経費実費（日本協会旅費規程基準に基づく）は日本協会が負担、また、出向期間分年次有給休暇は当協会服務規程に基づき付与することが説明された。



トヨタ自動車から日本協会に出向となる山之内克憲氏

以上が説明され、審議の結果、本件については了承された。

●報告事項

（1）今後の常務理事会及び理事会の日程調整について

岡本専務理事より、前回理事会で一部伝達した理事会日程について、河合会長との日程調整の結果、第5回理事会以降の理事会日程が示された。

また、常務理事会の日程については、現在事業計画で示されている日程から、これに近い日程で再度河合会長と日程調整し、次回理事会で報告することが説明された。

併せて、各委員会の会議回数や時期の目安が示され、本日選出された各委員長に委員会日程の設定・調整が要請された。

（2）事務局員紹介

岡本専務理事より事務局員を紹介。各事務局員が一人ひとり自己紹介を行った。



精力的な働きで日本のソフトボールを支える（公財）日本ソフトボール協会事務局員の皆さん



令和8年度第5回理事会議事録

本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認。理事25名中出席21名（欠席4名）、出席監事3名で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認され、審議が行われた。

●審議事項

第1号議案

各委員会委員の選定について

岡本専務理事より、前回理事会にて承認された本部長、副本部長、担当理事、および各本部に連なる委員会委員長、副委員長、各委員会の委員が推薦された。

総務委員会、技術委員会、指導者委員会、審判ルール委員会、記録委員会については9地区より選出された委員及び委員長推薦の委員が追加された。

また、指導者委員会では前回理事会で未定となっていた委員長、副委員長が推薦され（※詳細は別紙参照）、西

期日…令和8年7月5日（日）

13…30 / 14…30

場所…東京・Japan Sport Olympic square

／インターネット会議方式併用

理事現在数…25名

出席理事…21名

欠席理事…4名

出席監事…3名

議長…会長 河合 満

常務理事より総務委員会の北信越選出委員に誤りがあり、前田是幸氏から廣瀬修氏へ修正。また、特別委員会の中長期計画PDCA委員会とLA28強化特別委員会については、総務委員長である西常務理事を追加することが提案された（特別委員会の委員に西常務理事が就くことについては、理事会後、岡本専務理事により承諾）。

これを受けて審議が行われ、審議の結果、一部修正を加えた原案通りの内容で「第1号議案」は承認された。

第2号議案

常務理事会規程の改定について

岡本専務理事より、「常務理事会規程」の改定案が示され、いったん現行の規程を廃止し、新たな趣旨・内容に

変更することが説明された。変更の趣旨として、前会長も現会長も本業が多忙であり、会長が必ず出席して実施することが困難な状況にあり、「常務理事会」はいわば「作戦会議」の位置づけであることから、専務理事が中心となつて常務理事8名とともに議論し、その内容は会議前後に会長と共有の上、連携を図っていくことが説明された。

また、会長、副会長の参加が必要な「重要案件」については、会長、副会長も参加できる形で実施することも可能となるようにしている旨の説明がなされた。

これらの提案趣旨の説明を受け、審議が行われ、「第2号議案」は原案通り承認された。

第3号議案

第18回女子ワールドカップ・グループステージ

「チームリーダー」について

岡本専務理事より、本理事会の前日に出発した「女子TOP日本代表」が出場する「第18回女子ワールドカップ・グループステージ」の「チームリーダー」について、これから理事にペルーに出張を依頼することは現実的でなく、宇津木麗華ヘッドコーチが当協会副会長でもあることから「チームリーダー」を兼任し

てもらうことが提案され、了承された。

第4号議案

大会派遣役員について

西総務委員長より「全日本大会派遣割当表」が提示され、現時点では役員改選が行われたばかりであり、7月中旬より開催される全日本大会（全国大会）から8月の「インターハイ」（高校選手権）、「全中」（全国中学校）までの派遣割当案となることが説明された。「国民スポーツ大会」の派遣役員については、割当表示された常務理事に依頼し、承諾を得ている状況であることが併せて説明された。

空欄の部分は現在希望調査を行っており、派遣可能な大会を調整し、改めて報告することが説明された。

続いて、神谷審判ルール委員長より審判ルール委員会の全日本大会、リーグの審判委員の派遣計画案が、村田記録委員長より全日本大会、リーグの記録委員・派遣記録員の派遣計画案が提出された。

これらの提案を受け、審議が行われ、審議の結果、原案通り承認された。

・その他提案事項

女子大学日本代表選手

選考結果について

岡本専務理事より「女子大学アジアカップ日本代表」の選手選考について、先日、各委員の協力により選考会が無事終了したことが報告された。

本日、「選手強化本部」女子強化委員会のメンバーが決まったことから、後日「女子強化委員会」を開催し、そこで選手選考の承認を得て、その後、次回理事会まで開催期間が空いてしまうことから理事へメールで通知。文書による承認とすることが提案・了承された。

●報告事項

（1）各地区の活動報告

各地区の活動報告が次のように行われた。

（北海道／佐々木常務理事）

選手やチームの減少が進んでおり、特に小・中学生の減少が顕著である。その対策を検討しなければならぬが、数が減っているとはいえ、「ソフトボ

ールが好きの人」も決して少なくないので、そういった方を活用して対策の構築を図りたい。

（東北／鈴木副会長）

今年は青森で国スポが開催されることから、前々回の理事会でも説明したが、国スポを盛り上げるため、日本スポーツ協会から依頼のあったイベントを実施するにあたり、是非「日本協会の事業」として補助金等を拠出してほしいと要望しているので、是非検討してもらいたい。

（関東／鈴木理事）

4月4日、6月13日に理事会を開催。そこでは主に事業報告や関東予選の結果報告であったが、話題になってるのは日本協会でも検討されている「小・中学生の登録」についてで、トランプルの生じない形での「緩和」を求める声が多かった。

（北信越／西常務理事）

先週理事会があり「審判員のレベルアップ」を図りたいというのが各県の思いだった。昨年、「男子リーグ」を開催したところ、審判員の判定に対し、あまりにもクレームが多かった。原因は「審判員の高齢化」にあり、北信越地区で開催した「インター男子」（大

学選手権男子）や「男子リーグ」では、打球やブレイのスピードに対応できておらず、今後ますますその状況が進み加速していく懸念がある。審判員の育成とレベルアップが急務であると感じている。他地区も似たような状況にあると思うが、今後そういった高い競技レベルの大会が開催できなくなってくる可能性すらあると感じている。

今後は「審判員の増加・増員」を重点課題とし、若手審判員や女性審判員を増やしていく必要がある。

登録チームの増加についても、現時点で具体的な増加が見込める状況にはないが、その点についても対策を考えていきたいと思う。

（東海／大沼常務理事）

6月6日に三重県で東海4県理事長会議を行い、その中で他地区でも懸案事項に挙げられている「子どもたちへの普及」について、これからのようにサポートしていくかということを考えなければならぬ。

並行して女性審判員の技術向上をめざし、東海4県で女性審判員を集めて講習会を開催する予定である。

（近畿／平井理事）

昨日、近畿の理事長会を開催し、各ブロック大会がほぼ終了したことが報

告された。

その中では、先ほども話題に나つている「審判員の高齢化」やその他大会運営も含め、様々な問題が多々あることにに対し、今後どのように対応していくかという課題も出てきている。

ある大学のチームが急遽「当日棄権」する事例も出ており、近畿地区としてどのような形をとるか、こういった形でベナルティを含め相談していくか、様々な議論をしている。

チームの記録員から「記録5号」（全チームの投手成績／規定打球回数以上順位別）、「記録6号」（全チームの打撃成績／規定打席数以上ベスト30）の記録方法など、各チームにもっと積極的なアピールをしてもらうといった話も出ており、「選手ファースト」を大切に

（中国／秋枝常務理事）

中国地区では、まだ全員で集まってくる会議は開催できておらず、会議は8月29日に会合を開く予定である。

日本協会が開催した「第3回」「第4回」理事会の審議内容・決議内容を中国協会の理事長には報告しており、各チームに伝達するよう努めている。

以前の中国ブロック総会では「熱中症対策」が話題となり、そのための予算をどのような形で捻出していかか頭を

悩ませている。その場合、「給水タイム」の回数を増やす等、今年度も引き続き議論を進めていきたいと思っている。

先ほどから話題となっている「チーム登録数の減少」「高齢化」について、一時は増加傾向となっていた「シニア」「ハイシニア」も減少傾向になつてきている。高齢化は進んでいるが、「シニア」「ハイシニア」のカテゴリ以上の高齢になると、ある時期をピークにチームがだんだん減つてきている。中年層の「壮年」「実年」。さらには「一般男子」からどう増やしていくかが中国協会の中で課題となっている。

中国地区特有の問題として、「山陰」と「山陽」という問題があり、山口県でも「山陰」「山陽」に分かれるが、やはり「山陰」「山陽」で企業の数、人口の数に差異がある。そのような状況の中、いかにバランスを取っていくかが今後の課題になると思われる。

先ほど「女性審判員」についても言及があったが、山口県では「女性審判員」が、かなりレベルアップしており、「第1種」公認審判員の資格を取り、試合でも「女性だけ」で試合を進行・運営させていくだけの実力を有している。それをさらに推し進めていくために、他県と交流を持ち、「武者修行」に行かせて、レベルアップを図っている。

このような状況、討議内容を踏まえ、

今度8月29日に開催される中国地区の会議でも改めて意見をもらい、良い方向へ向かうことができるよう検討していきたい。

最終的にはどうしても「予算」にいきつき、今年度予算をどのように執行して、日本協会の資産を減らさず、増やすようにしなくてはならない。私自身も日本協会の「財務委員長」に就任したので、成果を出していきたいと思つている。今度8月の会議後に改めて報告させていただきたい。

（四国／谷田常務理事）

四国ブロックも昨年末に会議をして、様々な意見が出たが「審判員の高齢化」が大きな問題として挙げられており、愛媛以外、高知、香川、徳島では「第1種」公認審判員有資格者が先ほどの「審判員の高齢化」の影響もあり、数が減り、若手審判員の数も少なく、今後の大会運営が厳しくなつてくると予想される。この現状を鑑み、若手審判員の育成に乗り出し、各県で様々な取り組みを進めているが、試行錯誤の連続で、なかなか具体的な成果が見えてこない状況にある。

「普及」については「ASOBALL」が静岡県では盛んに実施されているが、香川県も「ASOBALL」を実施している。「普及」に関しては個人的な意

見だが、各県とも「高校生」をうまく活用して、「夏休み」「冬休み」「春休み」のどこかで1回でも2回でも、最寄りの幼稚園に行ってもらい「ASOBAL」をやってもらったら、これも普及につながることであり、協力する高校生にとっても「教える」ことによって、競技の「新たな魅力」に気づき、身につくのではないかと考えている。

「指導者資格」については、現在はかなり定着しているが、残念ながら「指導者資格」を持ってないチームも何チームかある。県の方でも資格取得を進めているが、どうしても「うっかりミス」があり、従前の「指導者対象講習会」のような救済措置を復活できないか、と思うところもある。子どもが小学生のとき、必要かられて資格取得はしたものの、中学生になるとその資格はほとんど更新されず、失効してしまうケースが多いのではないかとそこで登録だけは残し、年度の更新料は払わずとも、指導者資格を取った人たちの登録上ずっと残せるようなシステムにできないかと考えている。

（九州／稲福理事）

九州の理事会が8月中旬にあるので、私なりに考え、県単位、沖縄県あるいは別の委員会等々を立ち上げてやっているの、その報告をしたいと考えて

いる。

まず小学生は、九州8県のうちで福岡、長崎、鹿児島、宮崎は100チーム以上が登録するすごく大きな集団。一方、大分、熊本がその中間に位置し、佐賀と沖縄はほとんどない状態。この現状を打破すべく、沖縄でまず取りかかっているのが、「ソフトボール教室」の実施である。中・高校生に対し、高校の先生方がビッチング教室を開いているが、それをもう一歩進めて、小学生まで行いたいと考えている。今年10月に沖縄で「日本女子リーグ」の開催、11月には「日米対抗ソフトボール」が開催されるので、ここへ小・中・高校生については無償で入場できるような形にできないかと、県、市、あるいは我々協会としても動いている。こういった形でどんどんソフトボールが魅力あるものであることをPRし、若年層からソフトボール人口を掘り起こしていきたい。

（河合会長）

ありがとうございます。これは私、個人的な意見ではあるが、私のいる愛知県豊田市においても、小・中学生のクラブ活動が行われていない状況にある。先生の数、働き方改革も叫ばれており、その状況や必要性は理解しているが、豊田市長、大村愛知県知事ともよく話すのが、ソフトボールにかかわ

た「OB」「OG」がたくさんいるので、そういった人材をもっと指導者として活用し、時間外の2時間雇用する等、活性化を図る必要があると考えている。

今、子どもたちの体力がものすごく落ちている。個人的な見解だが、このままでは、これから社会に出て、会社で働ける労働者がいなくなるのでは……という危機感を持っている。今、愛知県でも高校卒業後の就職率は14%に過ぎず、高校卒業後、すぐに就職するのは、その程度の割合で、あとはみんな大学に行くことになる。そこで運動をしたり、体力をつけて大学を卒業してくれればいいが、eスポーツはじめ「ゲーム」「パソコン」、IT関係、AI、そういった方面ばかりがもてはやされ、そこを志向する人ばかりが増えていく。どこの学校にいてもそういう生徒ばかりとを感じる。この先、ウチの会社でも管理職や管理部門ばかりに人が集まり、その一方でそういった職種はAIで半分ぐらいはできるんじゃないかという状況にもなってきている。そうになると、今度はそういう人が体力もないのに生産現場で働き出す。非常に心配というのが本音である。

そういったことを踏まえ、職場のリーダーや市長に個人的にいろいろな話をしているが、皆さんが抱えている問題が行政の在り方とも関係してくる。

そういった部分については都道府県協会も行政との付き合いはあると思うので、普及活動等についても行政とタイアップするとか、eスポーツ等に予算を投入するのではあれば、子どもたちの育成等もやってもいいのではないかと考えている。

話題になった「審判員の高齢化」「審判員の減少」等についても、資料を見せてもらったが、もう半分以上ぐらいに審判員の数が増減傾向にあり、小・中学生のチーム数も減ってしまっている。こういった大きな課題を是正していく必要がある。これはソフトボール協会だけの問題ではなく、他の協会も同様の悩み、問題を抱えているはず。皆さんのお知恵、お力を借りながら、行政にも働きかけ、課題の解決に取り組んでいきたいと考えている。

（西村理事）

私はサッカーが専門だが、「課題」「問題」はどこでもあると思う。先ほどの審判員の問題でも、女性選手・女性審判員も含めたこの問題はスポーツだけの問題でなく、社会的な背景や構造も関係していると感じる。そういう意味では、我々サッカーの方ですごく嬉しいのは、先人の方がすごく頑張ってくださったおかげで、早い段階でそういう問題に直面し、すでにいろんなアク

ションを起こしているということ。そのあたりについては、先ほどの会議が始まる前に岡本専務理事と話して、サッカーでやっていることの情報共有は可能なので、これはJFA（公益財団法人日本サッカー協会）の許可をもらってやっていきたいと考えている。そこはもう一度、また皆さんで共有し、具体的に「ここについてももう少し詳しく教えてほしい」「これについて聞きたい」という形で応えていけたらと思う。

先ほど河合会長が言われたように、中学生の部活動の地域移行・地域展開については、これはもうどの種目においても「中学生デビュー」がなくなるということ。中学校から部活を始めた、その競技・種目に初めて触れた、そういう子がいなくなってしまう。サッカーにおいては部活があるからサッカーをやっている子が非常に多い。その意味においては、サッカーにとっても部活動の地域移行・地域展開というのは、まず登録が減り、中学生からサッカーをやる子がいなくなるといふ状況を招くことになる。それについてどう考え、アクションを起こすかについて、進めているところだが、これは「国の政策」であり、各都道府県、市町村のいう「行政」がかかわる問題でもある。現場の方々は自分でコントロールできない問題となっており、各都道府県のFA（サッカー

協会）がいかに動くのか。自分たちのFAも中学年代をこれからどうやっていくかということに今、取り組んでいる。これがまさしくサッカーの現状で「問題」「課題」はサッカーもソフトボールも一緒で、あとはどうやって改善していくかにかかっている。このソフトボールでの貴重な情報をサッカーにフィードバックし、私もサッカーの情報を皆さんに開示・共有していきたいと考えている。

（岡田理事）

私が専門のバレーボールでも、サッカー、バスケ、トボールを見習って、今まさにおっしゃられた「課題」、指導者の育成ということであったり、女性活躍、子どもたちへの普及、そこに取り組んでいる真つ最中である。

バレーボールもまだ始まったばかりのSVリーグがある。始まって3年目、まだまだ発展途上ではあるが、共有できるところはもちろん共有させていただきたい。またサッカー、バスケ、トボールといった他の競技から学び、ソフトボールの皆さんと一緒に頑張っていければと思っている。

（山田理事）

女性活躍というところで、私たち女子野球も同じ課題を持っている。先ほどの岡田理事の意見と同じく、いろん

なスポーツ団体とも課題を共有しながらヒントを得て、私の中で今後へ向けた施策もアイデアも出てきているので、今後、事務局の皆さんと一緒に動いていけたらと思っている。

（荒木理事）

昨日、私のかかわっているラグビーは、イタリア戦で勝利を収めた。私は「普及」というところには関わっていないが、どんな競技であっても「日本代表」が勝てば子どもたちが憧れ、その競技を志向し、「やってみたい」「やりたい」となるのではないかと考えている。現場ではとにかく「勝つ」ことが大事だという形で動いている。やはり「TOP」の日本代表が勝つということの価値は大きい。

ラグビーもまだまだマイナーだが、2012年当時はメディアの方の方もいらつしやらない感じだったのが、今はずいぶん取り上げていただけるようになり、国際大会から帰国する際には、空港で出迎えてくれるファンの姿が見られるようになった。

「代表が勝つ」ということは、そういったことにもつながり、「普及」のために活動をしてくださっている皆さんのためにも「勝ちたい」「結果を出したい」との思いで、代表チームに携わっている。何か私にできることがあればラグビーの情報を提供・共有して

いけると思うので、遠慮なくリクエストしていただければと思う。

（河合会長）

多方面からいろいろなお話をいただき、やはり結論として、子どもたちへの普及、人材育成、その人材の将来的かつ継続的な登用、そういう部分で苦労されていると感じる。これはやはり個々に頑張っても簡単なことではなく、なかなか実現できないことだと思うので、全員総力、一致団結して、国や行政も動かしていかなければならないと感じている。

各都道府県、市町村、地方においても、皆さんの困りごとをたくさん聞けたので、先進事例、成功事例についてはこれを全員で共有し、ソフトボール界全体の活性化につなげていければ幸いである。

（2）普及活動について

大沼常務理事より、静岡県ソフトボール協会が実施してきている「ASOBALL」を中心とした普及活動について紹介された。

大沼常務理事の「地元」である沼津市での取り組みに始まり、チーム数の激減に直面した経験、そこで感じた普及活動の重要性、「ASOBALL



理事、一人ひとりに発言を促し、ソフトボールを取り巻く現状、環境や今後の課題の集約に努める河合会長（左）

「L」の導入・活用、当初200名程度の参加から数千人規模の参加を実現させた過程・経緯やスポーツ体力テストの「ソフトボール投げ」全国ワーストからの脱却をめざした小・中学校での「投げ方教室」の実施。それに対するリーグチームの協力、高校生への審判資格推進等、様々な先進的な取り組み事例が紹介された。その一方で、やはり予算面をどのように工面していくかが大きな課題であることが報告された。

続いて、木田常務理事から一般社団法人全日本大学連盟専務理事という立場からの情報共有があり、昨年度からスタートさせた「第3種公認審判員」有資格者を増やそうという取り組みを紹介。全国9ブロックにお願いし、かつ助成金を頂戴し、それを活用する形で「第3種公認審判員認定会」をとりあえずやってほしいというところから始めている。学生が資格取得した場合、「登録料」がどうしてもネックになる。選手登録をしている学生たちに、今度は審判員としても登録料を……というところでもちょっとつまずきがちである。

昨年、約40名が資格を取得した。まだ協会としての資格は付与できないが、「技能講習会」を開催。80名が参加してくれた。本格的には今年度から全国9ブロックに助成金を出し、審判員認定会を実施してくれば助成すること

にしている。

普及についても、今年度から、まだソフトボールをやっていない、ソフトボールに出会っていない子どもたちに、ボールを投げたり打ったり、そういう機会を創れるかと、検討している段階である。大学連も登録人数の落ち込みが激しく、少子化の影響もあって資金的な限界もあるが、在学生だけでなく「卒業生」を含めた「人材」という「財産」を活用し、活動を進めていきたいとの報告があった。

これに関連し、大沼常務理事から中体連の実状についても静岡県の事例が報告され、部活動の地域移行・地域展開に伴い、その受け皿や担い手がない状況にあることが報告され、審判員等への謝礼が他競技に比べ、少な過ぎるとの指摘もあった。

Baseball5 GO (Game Official)

部会員推薦について

岡本専務理事より、全日本野球協会より「Baseball5」の競技役員を育成するための部会「Baseball115 GO部会」の部会員について、1名程度推薦を求められており、適任な人物を検討し、推薦することが報告された。

事務局だより

「L A 28」への道

本誌2～3頁で既報の通り、「第18回女子ワールドカップグループステージ」グループBでは、女子TOP日本代表が6戦全勝の1位で同大会「ファイナル」への出場権を獲得。その女子TOP日本代表と二度にわたり、「死闘」を演じたプエルトリコが2位に入り、同じく「ファイナル」への出場権を獲得した。

これに先立ち、6月16日～20日、チエコ・プラハで開催された「第18回女子



「グループB」2位のプエルトリコ

ワールドカップグループステージ」グループAでは、カナダが全勝の1位、チャイニーズ・タイペイが2位で同大会「ファイナル」への出場権を獲得した。

また、「グループA」では、4位に終わったオーストラリアが「第18回女子ワールドカップファイナル」の開催国であることから「ワイルドカード」での出場が決定。「グループA」「グループB」ですでに5チームが「ファイナル」進出を決めている。

この後、9月12日～16日、アメリカ・オクラホマシティで開催が予定されている「グループC」（アメリカ（2）、オランダ（6）、メキシコ（7）、中国（8）、ニュージーランド（23）、ブラジ



「グループA」全勝で1位通過したカナダ

ル（17）の6チームが出場。当初は南アフリカが出場予定であったが、ブラジルの代替出場が発表された。※（）内数字は2025年12月31日時点のWBSC（世界野球ソフトボール連盟）発表の世界ランキング）で残る3枠（上位2チームとワイルドカード1枠。ワイルドカードはグループBから選出される可能性もある）が決定される。

「第18回女子ワールドカップファイナル」は、来年2027年4月5日～11日、オーストラリア・レッドクリフで開催が予定されており、同大会が2028年に開催される「ロサンゼルスオリンピック」（L A 28）の「第1次予選」となり、「優勝」チームもしくは「L A



「グループA」2位のチャイニーズ・タイペイ

28開催国」として、すでにオリンピック出場権を有しているアメリカが「優勝」した場合、「準優勝」チームがオリンピック出場権を獲得することになる。

ここで2チームがオリンピック出場権を手にし、その後、「ヨーロッパ・アフリカ」「北中南米」「アジア・オセアニア」各大陸予選が行われ、各大陸予選の「優勝」チームにオリンピック出場権が与えられることになる（残り1枠はワイルドカードにより決定）。

女子TOP日本代表は、「第18回女子ワールドカップファイナル」で「連覇」を達成し、同時に「L A 28」への切符も手にすべく、今後さらなる強化を続けていくことになる。



「ワイルドカード」でファイナルに出場するオーストラリア